

一宮高 同窓会報

いちのみや

創立 1919

愛知県立一宮高等学校同窓会事務局
一宮市北園通り6の9
TEL 080-7075-2147
FAX 0586-73-1083
2023年9月15日発行

NO. 34
105周年
周年号

事務局へのお問い合わせについて

一宮高校同窓会事務局へのお問い合わせは、080-7075-2147まで
よろしく願いたします。



一宮桃陵館



全日制陸上競技部 全国大会出場



全国高等学校総合文化祭出場 生物部



全国高等学校定時制通信制大会出場
バスケットボール部・柔道部・陸上部



同窓会長

猪子 誠 児

同窓会の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また日頃は本会運営にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年の総会で土川保夫会長がご勇退されこの度、同窓会長を拝命いたしました猪子誠児（高22回・昭和45年卒）です。

母校を巣立った同窓生は、令和5年3月時点で4万人を超え、また母校が平成30年に創立100周年を迎えた際には、「一宮桃陵館（100周年記念館）」を同窓会員・PTA・地元企業のご協賛を賜り、平成31年2月に竣工させていただきました。このような一宮高等学校同窓会、歴代会長が築かれた伝統と歴史を考えますと、その責務の重さに身の引き締まる思いです。

本同窓会は皆様の貴重な運営費を基に運営させていただいており、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール校として5期（21年）連続指定を受け、県下の科学技術人材育成のフロントランナーとして、また高校総体では多くの部が県大会に出場するなど、活躍する在校生への支援をさせていただいております。

本同窓会報は毎年7月末までに運営費を頂いた方、総会幹事学年、次年度、次々年度幹事学年の皆様にご配布させていただいておりますが、105周年を迎える周年号は全会員の皆様にお届けを致しております。近年運営会費納入数は減少しており、厳しい状況にあります。少しでも多くの皆様のご支援を賜り、本校同窓会の運営にご協力をお願い申し上げます。納入方法もパソコン、スマートフォン等のクレジット決済の運営を開始させていただいておりますので是非ご利用ください。

同窓会の皆様には、今後とも引き続き同窓会へのご支援ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、会長挨拶とさせていただきます。

母学校長

阿部 孝広



私は、この春に、山田知子校長先生の後任として一宮高校に参りました阿部孝広と申します。どうかよろしくお願います。

同窓会の皆様には、日ごろから母校の発展のために、物心両面からのご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の法的な位置付けが「5類感染症」に変更され、これまで実施されていた様々な制限が解除されていく中で、数か月が経過しました。学校では、必要に応じて以前のスタイルに戻すものもありますが、一方で、コロナ禍で新たに導入されたICTなど、今や必要不可欠な道具として日常的に活用されるようになってきたものもあり、ようやく「Withコロナ」がスタートしたように感じられます。

このような状況の中ですが、在校生は先輩方から引き継いでいる「文武両道」の精神を見事に体現しております。今春の進捗実績においても、旧帝大をはじめ、国公立大学医学部医学科にも多くの生徒が合格しております。

また、ファッション創造科の生徒は、4年連続で「着物作品コンテスト」において、文部科学大臣賞を受賞しました。

文部科学省から指定を受けておりますSSHスーパーサイエンスハイスクール事業も今年度から新たに第V期の指定を受けましたが、これは、全国でも10校のみ、愛知県内では、一宮高校のみが指定を受けている事業です。第V期においては、これまでの成果を県内の学校へ普及させるための取組や女性科学者育成のための取組にも挑戦していきます。

部活動においても、今春の高校総体の尾張支部大会においては、多くの部が優秀な成績を収め、その結果として、男子は「総合優勝」、女子は「総合準優勝」を達成しました。その中でも、全日製の陸上部は北海道で行われました全国高等学校総合体育大会へ出場し、定時制の陸上部、バスケットボール部、柔道部は東京で行われました全国高等学校定時制通信制体育大会への出場を果たしています。また、生物部は、鹿児島で行われました全国高等学校総合文化祭へ出場しております。

今後、私たち職員は、一宮高校の生徒の健全な成長のために尽力して参りますので、同窓会の皆様方には、ぜひと添えを賜りますようお願い申し上げます。

運営

同窓会役員 (R5.4.1)

会長

猪子 誠兒 (高22回・昭45卒)

副会長兼関東支部長

森田 孝 (高11回・昭34卒)

副会長

伊藤 幸一 (高26回・昭49卒)

関戸 徹 (高28回・昭51卒)

杉山 義幸 (高37回・昭60卒)

佐々 憲一 (高42回・平2卒)

伊藤 葉子 (高44回・平4卒)

監査

柳倉 勲 (高37回・昭60卒)

会計

松原 健午 (高49回・平9卒)

箕浦 正幸 (母校事務長)

当番幹事代表

小出 将二 (高34回・昭57卒)

牧 謙治 (高34回・昭57卒)

押谷 真弓 (高34回・昭57卒)

納入のお礼、運営費クレジットカード決済サイトの運用について

毎年、同窓会運営費の納入にご協力いただき、誠にありがとうございます。

ご協力をいただく際の振り込み方法について、従来の郵便局やコンビニエンスストアでの振り込み方法に加え、パソコンやスマートフォンなどでのクレ

ジット決済サイトの運用を開始させていただいております。よろしくお願いたします。

同窓会報のお届けについて

今回は、周年号(5年毎、今回は第39号)のため、全会員にお届けしております。次号は毎年7月末までに運営費を納めていただいた方と、幹事学年(高校35回)・来年度再来年度幹事学年(高校36回、37回)・表彰学年の方に同窓会報をお届けします。お近くの同窓生の方に会報が届いていない方がみえましたら、本校HP内同窓会ページをご覧ください。手続きをされるようにお伝え願えれば幸いです。よろしくお願いたします。

寄付を頂きました

次の皆様より同窓会に寄付を頂きました。

- ・高校第6回(昭和29年卒)
 - ・高校第9回(昭和32年卒)
 - ・高校第12回(昭和35年卒)
- 運営費会計に入れて活用させていただきます。
ありがとうございます。

運営費納入状況

令和4年度運営費総計			
中併真真高定一	学 中 清 清併中 校 時 般	8 1 12 2 1,216 31 1	¥16,000 ¥2,000 ¥23,000 ¥4,000 ¥2,595,000 ¥61,000 ¥46,420
総計		1,271	¥2,747,420
令和3年度		1,402	¥2,886,000

★運営費の納入をぜひお願いします！

寄贈図書について

- 『タライ・ラマ六世恋愛詩集』 編訳/今枝 由朗・海老原志穂
- 『ダンマパダ ブッタ 真理の言葉』 S41年高卒 今枝 由朗
- 『自分と調和する生き方』 S56年高卒 川井 かおる
- 『我が青春のTRIVIA』 S36年高卒 稲垣 嘉則



[Website]
<https://miho-hakamada.com>
 [Instagram]
 @mihohakamada

「楽しい」の先にある音楽の仕事とは

袴田美帆

高校65回・平成25年卒

■サクソフォーン奏者

愛知県立二宮高校、神戸大学国際文学部卒業。大学在学中、パリ第7大学への交換留学と同時にパリ地方音楽院に入学し、音楽留学が始まる。パリ国立高等音楽院サクソフォーン科、室内楽科並びに即興科を修了。第8回ナント国際サクソフォーンコンクール満場一致の第1位、第7回アドルフサクソス国際コンクール第6位入賞、ベルギー室内管弦楽団と共演。令和3年度文化庁新進芸術家海外研修生として研鑽を積み「明日を担う音楽家たち2023」特別演奏会に出演、新日本フィルハーモニーと共演。NHKFMリサイタル・パッシオ出演。2023年秋、8年間暮らしたパリから地元二宮に拠点を移し「音楽と社会をつなぐサクソフォニスト」として新たな挑戦を始める。

一宮高校を卒業したばかりの10年前「フランスで音楽を続ける」という、当時恥ずかしくて誰にも言えなかった憧れを胸に、18歳の私はワクワクしていました。

私は吹奏楽部でサクソフォーンを始め、楽器が楽しい一心で、将来は音楽に関わる仕事が出来たと思うようになりました。でも、プロの世界は縁がないと無理矢理自分に言い聞かせ、みんなと同じように大学受験をすることに。志望校選びでは、芸術や音楽の勉強が出来ること、サクソフォーンの本場・パリに留学出来ること、この2つを条件にしたら神戸大学が見つかったので、ここしかないと思死に勉強しました。入学後は、交換留学の枠を取るためにフランス語を勉強し、留学が決まってからは、パリでもサクソフォーンを続けられる方法を探しました。そしたら素敵な教授との出会いがあり、大学と両立できるフランスの音楽院のシステムにも助けられ、私の音楽家への道が始まりました。

なぜこんな自己紹介をしたかというと、自分が想像できる範囲のことなら、誰でも挑戦できるというのを、

まず始めにお伝えしたかったからです。何も知らなかった高校生の私でも、「音楽は音大でしか続けられない」という周りの決めつけに流されず、自分を信じてここまで来ることができました。そして、この時の「大好きな音楽を、たくさんの人と共有したい」という素直な想いは、今でも変わらず私の原動力になっています。

美食の国フランスでの出会い

8年間のフランス生活では、数え切れないくらい素敵な出会いがあったのですが、私が芸術以外の分野で一番影響を受けたのが「食」です。パリではプロの料理人さんや、パティシエさんとお出会う機会が多く、彼らと仕事の話をするたびに、音楽との共通点を感じていました。

まず、「レシピ」と「楽譜」。書いてあることを忠実に再現するために、途方もない努力とテクニックが必要なこと。同時に、書いてあることは一部に過ぎず、それを自分のものにするには独自の解釈も求められること。楽譜とレシピはこの両方の側面を持ち合わせた、奥深いツールだなと感じています。

次に、「楽しい時間をお客さんと共有したい」という思い。素敵な時間を届けるためには、味やコンセプトだけでなく、空間づくりから見せ方まで工夫があって、色んな想いが込められている。仕事をする中で様々な



人と繋がり、世界観を共有する機会が増え、それに共感する人たちの輪が広がっていく。音楽でも料理でも、これを実現できる人たちが「プロフェッショナル」なんじゃないかな、と思うようになりました。

音楽家の仕事とこれからの課題

日本では、音楽家の資格もなければ保障もなく、いくら演奏が上手くても厳しい世界なのが現状です。ですが、この時代「音楽で生きていく」の基準は人それぞれで、その方法は具体的にしか説明できません。(その基準を自分でもわかっていない音楽家が多いのも事実ですが…) どうやって生きていくかは、何があっても実現したい自分の音楽活動、住みたい場所やライフスタイルを考えて、その都度見つけていくしかないのです。もちろん、全員が全員、音楽の演奏だけを生活はできませんし「演奏以外の仕事もする人」

音楽家になれなかった人」でもありません。だから、タブー視されがちなこの話題を、もっとオープンにみんな考えてるべきだと思っています。

言葉で表現するのは難しいですが、音楽から得る経験って本当に素晴らしいんです。「楽しい」の先に感じるものは、すごくインパクトがあって、推進力にもなります。そして、コンサートで音楽と一緒に楽しんでくれた人、自分と照らし合わせて感動してくれた人、演奏を聴きながら、音楽とは関係ないアイデアがふと浮かんでワクワクしている人、そんな人たちのキラキラした目を見ると「こういう機会が身近になれば、もっと楽しい社会になる」と感じるのです。

私は幸運なことに、今まで誰からも強制されることがなかったからか、とても自由に音楽を続けられています。だから、自分が演奏するコンサートは120%楽しいものにしたいたいし、フランスで得た素晴らしい経験を、私らしく表現して、日本の皆さんと一緒に分かち合いたい。この想いを胸に、アーティストと一緒に楽しく音楽を共有できる機会を増やすこと、特に皆さんが誘い合って音楽を楽しめる空間を作ることが、これからの目標です。これを読んでくださった皆さんとも、いつか楽しい音楽を共有できますように！

令和4年度総会開催

11月3日(木)、同窓会総会がiビルシビックホールを会場として開催されました。新型コロナウイルスの影響により、本年度も対面形式とオンライン配信とのハイブリッドで実施しました。スローガン「リモートでは感じられない温もりが！みんな

で会おう、同窓会！」を掲げ、高校33回生のご尽力により、会場参加とオンライン参加を合わせて約100名の参加者を迎えました。三年にもなる新型コロナ

ナウイルス感染症による厳しい状況と向き合いながら、無事に終えることができました。

総会は式次第に沿って、杉山義幸副会長の司会で進められ、伊藤幸一副会長による開会の言葉と物故者追悼、土川保夫会長の挨拶、山田知子母校校長の挨拶に続き、来賓の須賀藤隆元母校校長による来賓挨拶を賜りました。議事に入り、佐々陽子会計(母校事務長)による会計報告、山内薫監査による監査報告



総会の様子



平林氏による講演

に続き、役員紹介を行いました。令和四年度をもって土川保夫会長、中山令子副会長、瀧義孝顧問が退任されました。令和五年度からは、猪子誠児副会長が会長に就任し、新たに関戸徹副会長、伊藤葉子副会長、松原健午会計をお迎えすることになりました。続いて同窓会事務局から運営費の納入状況の報告と、卒業60年の方への記念品贈呈について説明しました。記念品贈呈については、現在も感染症の状況が予断を許さないことにより、会場に足を運ぶことが難しい方も多数いらっしゃるのであろうと考え、昨年度・一昨年度と同様、該当学年(昭和38年卒)の方で、運営費をご協力いただいた方に郵送することとしました。最後に、伊藤幸一副会長による閉会の言葉で総会を閉じました。

います。演題は「Diversity (多様性) を梃子に・・・日本への伸びしろ・・・」で、ご自身のハンドボール選手としての経験から始まり、ソ連やシンガポール、アメリカといった国々の様子や、ご自身が感じている日本への危機感について、データも示しながら多くの問題提起をしてくださいました。「日本は多様性を梃子にすれば、まだまだ成長余力がある」という言葉を信じて、自らも日々学びながら教育活動をしていかなければ、という使命感を与えてくださいました。

講演会後には、食事をする時間帯とマスクを着用して懇談する時間帯とを分けることで、三年ぶりの懇親会も実施できました。また、懇親会後には同会場にて学年懇親会も行われ、恩師を含めて90名の参加があり、笑顔あふれる様子が見られました。

最後に、相変わらず先行き不透明な状況下、難しい判断を求められる中で柔軟に対応し、総会実施のためにご尽力くださいました高校33回生の皆様、並びに関係の方々に厚く御礼申し上げます。

令和四年度総会を終えて

山田知子(高校33回)

コロナ禍の中、無事に令和四年度の総会を終えることができ、幹事学年の皆様を始め、ご協力くださいましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。私は母校校長と幹事学年の両方の立場で総会の運営に携わらせていただきました。幹事学年である高校33回生は、住所不明者が多く、横の連絡を取ることにとても苦労しました。また、コロナの感染状況が刻々と変化する中で、開催方法等についても、何度も見直すこととなりました。時に、仲間同士で意見がぶつかることもありましたが、熊澤代表を始めとする幹事の皆様の献身的なご協力のおかげで、数々の困難を乗り越えることができました。そしてスローガンの通り、「みんなであう」ことの温もりと喜びを実感できた同窓会となりました。校長としてうれしかったのは、吹奏楽部の生演奏を同窓生の皆様に聴いていただけたことです。物心両面で母校を支えてくださる同窓生の皆様に、在校生の活躍を直接見聞きしていただく機会がこれからも増えることを期待しております。

令和五年度の総会にも多くの皆様ご参加いただけることを心より願っております。

関東支部「第22回総会」を開催

念願叶う！ 4年ぶりの開催 笑顔溢れ 盛会裏に終わる

実行委員長 川井かおる（昭56卒）

第22回一宮高等学校同窓会・関東支部総会が2023年4月9日にアルカディア市ヶ谷私学会館にて、4年ぶりに開催されました。

本部から土川保夫前会長、猪子誠児会長、並びに母校より山田知子前校長、阿部孝広校長のご臨席を賜り、168名もの皆様にご参加くださり、終始、笑顔いっぱいのお会となりました。



ご来賓をお迎えして

（左より）梶原講師、阿部校長、山田前校長、土川前同窓会長、猪子同窓会長、森田支部長、堀尾副支部長、後藤幹事（新支部長）、川井実行委員長

第一部の総会では、役員の交代が承認され、後任の後藤益男新支部長（昭和53年卒）のもとで、新体制が発足することになりました。そして、森田孝前支部長（昭和34年卒）より、在任15年間に回顧し、感謝を込めて退任のご挨拶がありました。

第2部では、昭和55年卒で、ギターリスト・スタジオミュージシャンの「素晴らしい会でした」「時間が経つのも忘れるほど中身の濃い内容でした」大変な盛大ぶりに驚き楽しい時間を過ごしました」など、数々の有難いお言葉を頂き、感慨無量です。

これもひとえに、同窓会本部及び支部役員はじめ学年幹事の皆様からの多大なるご支援、並びに昭和54年、55年卒の実行委員のお力添え、168名ものご参加者様、そして、母校を愛する皆様方のおかげです。心から感謝申し上げます。

実行委員となり、高校卒業後、42年ぶりに同窓生と会うことができ、最高のメンバーで総会の準備に携わらせて頂くことができ、総会終了後には、新たな交流が始まり、とても幸せを感じております。

これは、関東支部という同窓会があったからこそであり、22回にわたり、関東支部を継続してくださった諸先輩の皆様方に敬意を表するとともに、このような貴重な機会を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

それと共に、4年ぶりの開催は、令和時代の新しい同窓会へと変容していく扉を開けるタイミングになったのではないかと感じた次第です。

本当にありがとうございます！



168名集う満席の総会会場（第1部）

なお、（次回）第23回関東支部総会・懇親会は2024年4月7日（日）12時より、同アルカディア市ヶ谷私学会館にて開催する予定です。詳細は、年明けの2月にご案内致します。多くの皆様のご出席を頂ければ幸いです。何卒宜しくお願い致します。

母校だより

■全日制

約3年間続いた新型コロナウイルスへの対応が緩和され、生徒は「質実剛健」の校訓のもと、日ごろの学業や部活動、学校行事に全力で取り組んでいます。コロナ前にあった日常を取り戻しつつあり、校内には生徒の笑顔が溢れ、活気に満ちています。

総合体育大会では、各々が粘り強く戦い、尾張支部で男子が総合優勝、女子が総合準優勝を果たしました。団体では、ラグビー部・水泳部男女が優勝した

ほか、弓道部女子・剣道部男子・陸上部男子・ソフトテニス部男子・卓球部女子・バレーボール部女子・バスケットボール部女子・ハンドボール部男女・サッカー部・体操部男女と多くの部が県大会に出場しました。個人でも、多くの生徒が優勝をはじめとした好成績を収め、県大会に出場しています。特に陸上部男子の110mハドルと走り幅跳びでは、県大会でも上位の成績を収めて東海大会（静岡県）へ進み、東海大会では110mハドルの選手が快走を見せ、見事に全国高校総体（北海道）への切符を獲得しました。

またSSH事業では、令和5年度から3年間の第V期申請が認められ（全国で十校・愛知県内で唯一）、通算21年目を迎える

も「きもの作品コンテスト」において最優秀賞にあたる文部科学大臣賞を受賞し、4年連続で本校生徒が受賞する快挙が続いています。その他にも、全日本きもの振興会会長賞、日本和裁士会会長賞などの優秀賞も受賞しています。また、11月に真清田神社や本町商店街を会場にして行われる、東京ガールズコレクション（TGC）関連イベント「尾州フェス」への協力も決まっております。

生物部では魚と植物を同時に飼育・栽培することで資源を有効活用できる循環システムであるアクアポニックスの研究によつて、愛知県高文連の研究発表で最優秀賞を受賞し、7月末に鹿児島県で行われる全国高等学校総合文化祭に出場します。地学部も千葉県の幕張メッセで行われた「日本地球惑星科学連合2023大会」に出場し、上位の賞である奨励賞を受賞しました。

は13名で、日本福祉大学、愛知文教大学、各種専門学校へ進みました。就職では、11名の生徒が正社員となりました。全校生徒数は、5月1日現在113名です。また、今年度の新入生は39名で、2クラスの少人数編成を継続し、基礎学力の向上を図ります。

部活動は柔道部、バドミントン部、バスケットボール部、陸上競技部が引き続き、顧問とともに活発に活動しています。定通総合体育大会では、柔道部、バスケットボール部、陸上部が8月に行われる全国大会出場の切符を手に入れました。また、バドミントン部も9月の東海大会に出場することが決定しました。

外国人生徒教育支援員に学習支援を受けている生徒たち（タガログ語・ポルトガル語、日本語教育）も教科の学習と並行して頑張っています。

学校行事では、6月9日にスポーツ大会が実施され、ソフトバレーボールの熱い戦いが繰り広げられました。また、7月27日にはボート大会が開催され、クラスの親睦が深まりました。

主な国公立大学入試合格者数

()内は卒業生の内数

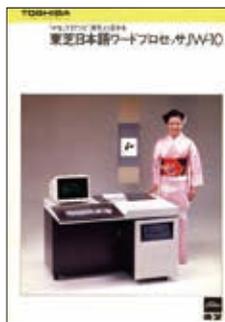
大学名	令和5年度 (75回生)	令和4年度 (74回生)
<国立大学>		
北海道大	7 (2)	4 (2)
東北大	1	
東京大	13 (3)	13 (8)
一橋大	1 (1)	6 (2)
静岡大	16 (3)	26 (6)
名古屋大		4 (1)
愛知教育大	78 (16)	73 (11)
名古屋工業大	7 (1)	14
三重大	17 (1)	20 (2)
滋賀大	4 (2)	11 (1)
京大	4 (1)	1
神大	22 (8)	20 (10)
阪大	8 (1)	10 (5)
神戸大	4 (2)	7 (2)
広島大	1	7 (1)
国立医学部医学科	13 (8)	3 (1)
上記含国立大学総計	215 (49)	249 (62)
<公立大学>		
愛知県立大	2	4
名古屋市立大	16 (1)	9 (2)
上記含公立大学総計	29 (6)	22 (5)
<私立大学>		
慶應義塾大	15 (5)	17 (14)
東京理科大学	29 (18)	49 (31)
明治大	18 (11)	22 (16)
早稲田大	14 (5)	18 (14)
南山大	106 (8)	130 (39)
同志社大	73 (27)	89 (38)
立命館大	77 (29)	84 (36)
上記含私立大学総計	680 (191)	771 (292)

■定時制

令和5年3月の卒業生は3年6名を含む31名でした。進学者

下足箱が新しくなりました!

本校卒業生 天野 真家（あまの しんや）様（高18昭和41年卒）からのご寄付により、下足箱がすべて新しくなりました。（2022年11月26日）



かな漢字変換ワードプロセッサ

天野さんは、「かな漢字変換の実用化発明と、日本語ワードプロセッサの発明」をされた方です。我々が現在、当たり前のようにパソコンやスマホなどで、漢字を含む日本語の文章を作成できるのは天野さんの発明によるものです。この開発の物語は、NHKのドキュメンタリー番組「プロジェクトX挑戦者たち『運命の最終テスト』」のワープロ・日本語に挑んだ若者たち」でも放送されました。



天野さんはインターネットで母校のことを検索していて、「ボロイトイレが信じられないほど汚く、靴箱やロッカーは錆びたりして開かないものや使えないものもあります」といった内容の書き込みを見つけ、「後輩の生徒の皆さんのお役に立てれば・・・」とお考えから多額のご寄付をお申し出くださいました。

天野さんからは、次のような言葉もいただいています。

「一宮高校の生徒は実に優秀です。ここ首都圏にも（天野さんは神奈川県在住）多くの卒業生が来ていて、活躍しています。同窓会関東支部が出来ている程の人数がいますね。後輩の皆さんが、これからも『夢をもって』勉学に励まれんことを願っています。」

感謝の思いをもって、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

陸上部

陸上部

北海道インターハイ出場!!

2023年6月15日（金）より静岡スタジアム「エコパ」にて第70回東海高等学校総合体育大会が開催されました。

本校からは県総体を勝ち抜いた男子2名が出場し、以下の結果を収めました。

- ・男子110mハードル 第4位 岩田 優
- ・男子走幅跳 第11位 宮本 恭伍

6m91(+0.2)

岩田君は2年生の春よりハードル競技に取り組み、努力を重ね目標としていたインターハイ出場をつかみ取りました。



予選、準決勝と落ち着いて安定した走りを見せ決勝に進出。決勝でも持ち前の高い集中力を発揮するとともにレベルの高い競い合いに競り負けることなく自己ベスト記録で4位に入賞しました。

今後はインターハイでの決勝進出を目標に更なる技術向上に取り組んでいきます。

2年生の宮本君は持ち前の思い切りのよい跳躍はできましたが、悔しい思いをしました。来年の福岡インターハイを目指し、この夏は課題克服に向けて目的意識をもった練習を行っていく予定です。

最後に応援してください多くの皆様、日頃から陸上競技部の活動にご理解とご支援をいただいている皆様ありがとうございます。今後も感謝の気持ちをお忘れず、応援されるチーム・選手であるように努力して参ります。

〈速報〉北海道インターハイ結果

・男子110mH

岩田 優

予選3組4着 14秒72

(+0.4)自己ベスト記録

準決勝3組 8着

14秒76(+1.5)

生物部

アクアポニックス班

一宮高校生物部は、生き物を愛し、誰もが「おもしろい!」「もっと知りたい!」と思えるような研究を目指して日々活動しています。

アクアポニックス班は、1年生の時テレビで偶然見かけた「アクアポニックス」というシステムに興味を持ち、自分たちで新たに研究班を立ち上げました。植物の生長速度の比較や家庭普及をすることでアクアポニックスを広めるための研究活動を行ってきました。研究は想像以上につらいことも多く仲間同士でぶつかりあうこともありましたが、何度も話し合い、コミュニケーションをとることで大変な日々を乗り越えてきました。

県高文連が主催する研究発表会が令和5年2月4日（土）に開催され、アクアポニックス班3名はポスターを使った口頭発表で全国審査部門最優秀賞をいただきました。

全国審査部門は令和4年度から設立されたもので、翌年度の全国総文祭へ出場するチームを選考する、県大会にあたる発表会です。

愛知県で初めて開催される大会の発表順1番という、普段よりも更に緊張する場面でしたが、様々な場面で発表した経験を生かし、落ち着いた態度で発表でき、質疑に対する的確に回答できたことが審査員に高く評価されました。

7月29日(土)より鹿児島大学で開催される全国総文祭 自然科学部門ポスター部門で愛知



アクアポニックスの効果の検証と家庭普及～FOR SDGs～

愛知県立一宮高等学校生物部 アクアポニックス班

アクアポニックスとは？

魚と植物を同時に飼育・栽培することで、資源を有効活用できる循環システム



メリットと現状

- ①農薬や肥料の過剰な使用を抑制
→赤潮やアオコの発生抑制、肥料コスト削減
- ②魚と植物を1つの装置で同時に飼育・栽培
→植物の生長促進、水やり・水換えなどの手間を省く
- ③資源の循環など、小さな生態系を再現
→学校や家庭への設置による生態系への興味・意識向上

現状 農業と養殖業の組み合わせ、家庭用装置への応用

認知度が低い → 実際の使用に基づく情報が少ない
商品生産が拡大しない

目的

アクアポニックスが及ぼす様々な効果に関するデータを積み、より正確な情報と魅力を発信する
家庭でのアクアポニックスの認知度を高めることで需要を増加させ、環境保護につなげる

生長速度

<検証方法>

- ①スーパーで購入した*1コマツナを根元から3～5cmのところまで切った
- ②各条件につき同じ本数ずつコマツナを植え、水耕栽培した
- ③登校日にコマツナの伸長を測定した
- ④コマツナの伸長をグラフに示した
- ⑤各条件の間で検定を行った*2

- *1) 家庭普及を考慮して植物は再生栽培を行った
- *2) $P(T \leq t) < 0.05$ を「有意差あり」とした



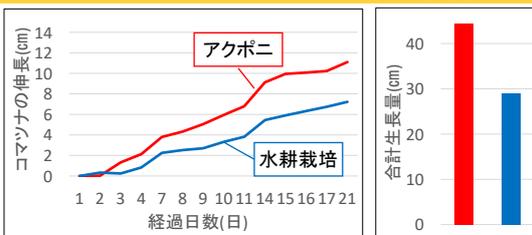
実験1 アクポニと水耕栽培の比較



・生長速度: **アクポニ>水耕栽培**
→アクアポニックスを使用した方が水耕栽培よりも**植物の生長が速い**

有意差あり

実験3 コマツナの本数による影響



・生長速度: **アクポニ>水耕栽培?**
→コマツナの生長の**個体差が大きい**

有意差なし

・**密度効果**が起きた可能性

植物の生育密度が大きくなると資源の競争が激しくなり1個体あたりの生長が妨げられることがあるが、最終的な全体の生長量は一定になる

・合計生長量: **アクポニ>水耕栽培**
⇒植物の**生育密度**についても検討していく必要

<結論> ・アクアポニックスは植物に対して**効果あり**
・植物の生長促進に最も大きく影響しているのは「**餌**」
・植物を植える**密度**が生長に影響を与える可能性あり

実験2 餌のみの条件を追加



・生長速度: **餌あり>餌なし**
→**餌の成分**によって植物の生長促進

・生長速度: **魚あり=魚なし**
→魚の有無は生長速度に影響しない

有意差あり

【魚の必要性】

- ・魚が受けるメリット: ろ過フィルターよりも浄化された水
- ・教育的メリット: 生態系の学習教材

アクアポニックスの普及活動



家庭用装置の開発・コンパクト化



小学校での出前授業

県代表として発表します。ポスター部門は各都道府県1チーム2名だけが出場できる、自然科学部門最大の舞台で、令和5年度は45チームが文部科学大臣賞をめぐる成果を発表します。

研究の基礎も知らなかった私たちが、全国大会という大きな舞台で発表させていただけるのは顧問の先生をはじめ多くの方々の協力とご支援があったからです。2年半で培った経験を十分に発揮し、良い結果が出来るように頑張ります。

1・2年生もそれぞれの研究に毎日全力で取り組んでいます。これからも一宮高校生物部をよろしくお願ひします。

水質検査

<検証方法>

- ①パケット(共立化学研究所)と分光光度計を使用して硝酸イオン、亜硝酸イオン、アンモニウムイオンのイオン濃度(mg/L)と吸光度の関係を示す検量線を作成した*3
- ②定植前の3週間、定植後から約1か月間定期的に水質検査を行った

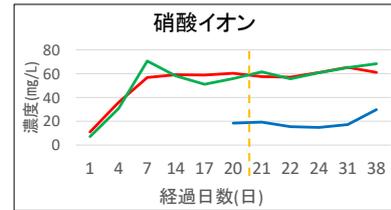
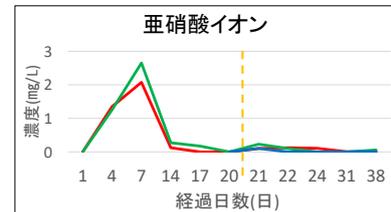
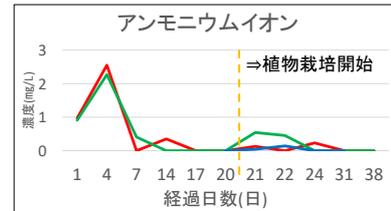
*3)参考文献d参照



赤:アクポニ 魚○ 餌○ 植物○
 青:水耕栽培 魚× 餌× 植物○
 緑:植物なし 魚○ 餌○ 植物×

<考察>

- ・アンモニウム、亜硝酸イオンのピーク:魚の飼育開始から約1~2週間→1, 2週間で水づくりが完了し、微生物の**養分分解のサイクルが安定**
- ・硝酸イオン:**アクポニ>水耕栽培**
→**植物の生長促進**に関係していると思われる
- ・使用したパケットの硝酸イオンの測定範囲の限界:60~70mg/mL
→植物の有無による硝酸イオンの増減の違いは測定できなかった



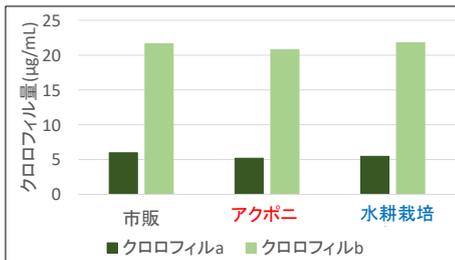
クロロフィル定量

<検証方法>

- ①栽培したコマツナの葉を2cm×2cmで切り取った
- ②アセトン抽出法*4によりクロロフィルの抽出を行った
- ③②の上澄み液を663.6nm、646.6nmの吸光度を測定した
- ④R.J.Porraの計算式*4からクロロフィルa/bの値を算出した

*4)参考文献c参照

<結果>



<計算式>

クロロフィルa (µg/mL) = 12.25 × [663.6nm] - 2.25 × [646.6nm]
 クロロフィルb (µg/mL) = 20.31 × [646.6nm] - 4.91 × [663.6nm]

<考察>

- ・硝酸イオン:**アクポニ>水耕栽培**(水質検査より)
→クロロフィル量には有意差なし
⇒クロロフィル合成に不可欠な成分: Mg^{2+}
⇒窒素以外の成分(Mg^{2+} など)の不足がアクポニの課題?

結論

- ★アクアポニックスのシステムは**植物の生長を促進**
⇒植物を植える密度が課題
- ★**1~2週間**で水づくりが完了
⇒植物の有無による増減の違いは測定できなかった
- ★餌と魚を入れてもクロロフィル量に差はない
⇒**窒素以外の成分が不足**している可能性?

今後の展望

- ・アクアポニックスの魅力を伝える動画の作成
- ・教育の場におけるアクアポニックス装置の普及
- ・ハーブ等の他の植物での生長の比較

アクアポニックスの魅力を広め需要増加
 ↓
 環境保護、持続可能な産業の拡大へ!

参考文献/謝辞

- アクアポニックスの循環ってどんな仕組み? AQUAPONICS-さかな畑- <https://aquaponics.co.jp/blog/aquaponics-cycle-explain/> (参照日2022-10-15)
- [AGRI PICK連携企画]再生栽培「リボベジ」でエコな生活! 挑戦できる野菜はこんなにいろいろ AGRI PICK編集部<https://smartagri-jp.com/farmer/773> (参照日2022-10-15)
- 田中亮一 クロロフィルおよびクロロフィル代謝経路中間体の抽出・定量法 2009-3-31 3章単離・精製・活性測定,5色素の分析,a
- 分光光度計を用いたパケットの定量化の検討と検証-富栄養化に着目して- 福井県立藤島高等学校 2022 STEM教育研究Vol.4
- 有機質肥料を用いた植物の栽培実験 豊田西高等学校

一宮市立起小学校の教員 児童の方々、愛知県総合教育センターの中村羊大先生 原田拳志先生をはじめ
 本研究にご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げます。

後輩の活躍

【全日制】
部活動

〔現在活動している部活動〕

- 〔定時制〕【令和5年度】
〔第74回愛知県高等学校
定時制通信制総合体育大会〕
- ◎陸上部
女子3000m
1位(全国定通総体大会出場)
長野 茉莉乃
- ◎柔道部
男子個人戦 75kg級
1位 水野 純斗
(全国定通総体個人戦出場)
(東海大会個人戦出場)
全国大会5位入賞

計31 弓道、剣道、野球、ソフトボール、陸上競技、卓球、ソフトテニス、バスケ、バレーボール、ハンドボール、ラグビー、サッカー、水泳、体操、山岳、演劇、音楽、美術、書道、華道、茶道、写真、手芸、数学、生活、吹奏楽、物化、地学、生物、文芸、放送

- ◎卓球部
第77回愛知県高校総体尾張支部予選会
(男子個人) 県大会出場
(女子団体) 準優勝
(女子個人) シングルス2名
ダブルス1組 県大会出場
- ◎バレーボール部
(女子) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 第4位
- ◎バスケットボール部
(女子) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 第3位
- ◎ハンドボール部
(男子) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 準優勝
(女子) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 優勝
- ◎ラグビー部
第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 優勝
- ◎サッカー部
第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 第3位
- ◎体操部
(男子団体) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 第2位
同大会県大会 第4位
(男子個人) 総合2位 跳馬
優勝 県大会出場
(女子団体) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 第2位
- ◎吹奏楽部
2023年度愛知県吹奏楽コンクール西尾張地区大会
金賞 同大会県大会 銀賞

◎水泳部

(団体) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会
男子総合 優勝
第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 女子総合 優勝
(男子個人) 50m自由形、100m背泳ぎ、200m自由形、400m自由形、100mバタフライ、200mバタフライ、200m個人メドレー、400m個人メドレー、4×200mフリーリレー、4×100mメドレーリレー

量分布」
【令和4年度】(部活動の成果)
◎弓道部
第76回愛知県高校総体尾張支部予選
【男子団体】第2位
【男子個人】優勝 県大会出場

◎剣道部

第76回愛知県高校総体尾張支部予選【男子個人】準優勝
1名 ベスト81名
ともに県大会出場

◎ソフトボール部

第76回愛知県高校総体尾張支部予選第5位県大会出場

◎陸上部

第76回愛知県高校総体尾張支部予選
【団体】総合男子優勝
【個人】男子10種目に延べ20名県大会出場
女子 8種目に延べ12名 県大会出場
うち男子三段跳(県優勝)、男子800m(県4位) 東海大会出場
男子三段跳(東海5位)、男子800m(東海6位) 全国大会出場
全国高校総体 男子800m 準決勝4着 男子三段跳 決勝進出全国14位
U-18 男子800m 全国第3位

- 90kg超級
1位 小森 弘
(全国定通総体個人戦出場)
(東海大会個人戦出場)
全国大会団体戦(愛知県選抜) 準優勝
- 女子個人戦 52kg級
2位(東海大会個人戦出場)
岩井 智鶴
- 63kg級
1位 田中つむぎ
(全国定通総体個人戦出場)
(東海大会個人戦出場)
- ◎バスケットボール部
男子優勝
(全国定通総体大会出場)
- ◎バドミントン部
女子シングルス
5位(東海大会出場)
小澤 里菜

【令和5年度】
(7月までの県大会以上の成績)
◎弓道部
(女子団体) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 県大会出場
◎陸上部
(男子団体) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会
男子総合2位
(男子個人) 1500m、1100mH、400mH、3000mSC、走幅跳、三段跳、4×100mR、4×400mR
(女子個人) 400m、1500m、5000m競歩、やり投以上、県大会出場

◎ソフトテニス部
(男子団体) 第77回愛知県高校総体尾張支部予選会 第2位
(男子個人) ダブルス4組 県大会出場

◎地学部

☆男子 総合 優勝
☆女子 総合 準優勝
第77回愛知県高校総体尾張支部
日本地球惑星科学連合2023大会 高校生によるポスター発表 奨励賞
「ターコイズフリンジの色彩に迫る」2021.11.19 & 2022.11.8月食における本影境界付近のRVB光

第65回東海陸上競技選手権

【個人】男子800m第4位

◎卓球部

第76回愛知県高校総体尾張支部予選

【女子団体】準優勝 県大会出場

【女子個人】シングルスで2名、ダブルスで1組 県大会出場

東海卓球選手権大会 女子ダブルス出場

【ソフトテニス部】

第76回愛知県高校総体尾張支部予選

【団体】女子 第3位 県大会出場

【個人】男子ダブルスで1組（ベスト8） 県大会出場

女子ダブルスで2組（ベスト8） 県大会出場

令和4年度国体予選【個人】男子ダブルスで2組（ベスト8と16） 県大会出場

2022年度愛知県公立インドアソフトテニス大会

【団体】男子優勝

【バレーボール部】

第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会尾張支部予選女子第5位 県大会出場

バスケットボール部

第9回3×3 U-18 日本選手権大会愛知県予選会 女子第2位

U-18 ALL AICHI LEAGUE

2022 尾張支部Xリーグ 女子第1位 県リーグ参入戦出場

U-18 ALL AICHI 3×3 FESTIVAL 2022 女子Aチーム優勝

女子Bチーム準優勝

【ハンドボール部】

第76回愛知県高校総体尾張支部予選男子第5位 県大会出場

女子第3位 県大会出場

【ラグビー部】

第76回愛知県高校総体尾張支部予選優勝 県大会出場

【体操部】

第76回愛知県高校総体尾張支部予選

【男子団体】優勝 県大会2位

【女子団体】第3位 県大会出場

【男子個人】あん馬 優勝 県大会出場

【水泳部】

第76回愛知県高校総体尾張支部予選

【男子団体】総合1位

【女子団体】総合3位

【吹奏楽部】

2022年愛知県吹奏楽コンクール西尾張地区大会 金賞

同大会 県大会 銀賞

第35回中部日本個人・重奏コンテスト県大会個人の部

トロンボーン独奏金賞

マリンバ独奏金賞ともに本大会出場

化学グランプリ2022二次選考 銀賞

第7回東海地区理科研究発表会 審査員特別賞

第22回情報オリンピック 敢闘賞

第20回高校生・高専生科学技術チャレンジ5名入選

◎物化部

化学グランプリ2022二次選考 銀賞

第7回東海地区理科研究発表会 審査員特別賞

第22回情報オリンピック 敢闘賞

第20回高校生・高専生科学技術チャレンジ5名入選

ISE（国際学生科学技術フェア）出場「アメリカ化学会奨励賞」を受賞（令和3年度）

【生物部】

第22回A-I-Tサイエンス大賞

社会科学・地域づくり部門2班で5名優秀賞

第37回愛知県高等学校文化連盟自然科学専門部研究発表会 全国審査部門

1班で3名最優秀賞

【地学部】

第7回東海地区理科研究発表会 審査員特別賞

【数学部】

第33回日本数学オリンピック 3名優秀賞

【部活動以外】

第68回青少年読書感想文愛知県コンクール 1名 愛知県知事賞 全国コンクール入選賞

【情報科】

統計データ分析コンペティション統計活用奨励賞（全国で上位4名以内）

☆ファッション創造科

第33回きもの作品コンテスト 文部科学大臣賞（4年連続）

1名

全国技能士連合会会長賞 1名

全日本きもの振興会会長賞 1名

日本和裁士会会長賞 2名

令和4年度きもの装いコンテスト 東海中部地区大会 第2位

NDKフレッシュコンテスト 2022

作品制作部門

東海テレビ放送賞 1名

愛知県教育委員会賞 1名

デザイン画部門 準グランプリ賞

・リデザインプロジェクト2022

・あおいと賞 1名 ウェイストボックス賞 1名 興和テネリータ賞 1名

・岐阜女子大学主催第8回紙しばい&絵本コンテスト 絵本部門 大賞 1名入賞 1名

・第5回中高生情報学研究コンテスト

・2年生 中高生研究奨励賞

【定時制】

◎全国定通大会出場 陸上部 女子3000m、柔道男子 団体

バスケット男子 全国大会3位

卒業60年になる同窓生の方には 記念品贈呈

総会出席の

昭和39年卒、高16回生・定13回生 が対象です。

本年は、主に昭和20年4月～21年3月生まれの方が該当学年です。

吹奏楽部からのお願い

吹奏楽部では近年管楽器の購入ができず、学校所有の楽器の老朽化が深刻になってきています。楽器をお譲りしていただけた方がいらつしやいましたら、吹奏楽部顧問までご連絡いただくと幸いです。よろしくお願いたします。

総会

令和5年度総会

第105回同窓会総会は、還暦を迎える高校34回生が幹事として開催いたします。新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、社会活動は従前の活発さを取り戻しつつあります。同窓会総会も3年ぶりに制約のないリアル開催とし、親睦を深める機会にして頂ければと思います。

会場は若き日に学んだ一宮の地にあるiビルシビックホールです。一宮駅も当時とは様変わりし、図書館やホール、商業施設が併設され、一宮市の玄関口として多くの人が集う場所となつていきます。若き日を思い起こして頂ければ幸いです。

さて、幹事一同はこの企画のため1月から活動を開始しました。再会の自己紹介では、図らずも銘々がぼんやりと考え始めたセカンドライフの話題となり、かつ人生100年と言われる時代、同窓会を、これからの人生をどう充実させるのか、そんなことに思いを馳せる機会にできるといいねという方向感に至りました。また地域貢献にも携わりたいねというのも共通の思いでした。

そんな折、同窓生でNHKラジオディレクターである篠田道秀氏によるラジオ番組を聴く機会を得ました。内容は明治神宮

外苑の再開発についてです。明治神宮外苑はおよそ100年前に民間の手によって開発され都会のオアシスとして育まれてきた美しい銀杏並木のある空間です。紙幅の都合上、詳細は割愛しますが、篠田さんの自然と人の営みに対する深い思い入れを感じた次第です。

また篠田さんは生活基盤を東京に移しているにもかかわらず、聞けば今、ライフワークで一宮の自然と歴史、土地の持つ魅力を生かし受け継ぐ活動もしているとか。これは幹事一同がこの同窓会に寄せる思いに通ずる話があるのではないかと、そんなことから今年度の講演をご依頼することになったものです。現役プロの心地よく甘く響

く声や話しぶりにもご期待頂きます。

講演会後の懇親会・同窓会では、来し方行く末について存分に語り合つて頂ければと思います。

多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

幹事学年 高34回生幹事一同

令和5年度同総会総会

「シン 同窓会」

～人生100年時代 これまで、そしてこれからのために～

日時 令和5年11月3日(金/祝日)
 受付 10時00分～11時00分
 総会 11時00分～11時40分
 講演会 11時40分～12時30分
 懇親会 13時00分～14時30分

会場 尾張一宮駅前ビル(i-ビル7階シビックホール)
 ☎0586-28-9153
 尾張一宮駅・名鉄一宮駅改札口より東へ徒歩1分

会費 総会・講演会：無料
 懇親会：8,000円

申込・締切 懇親会へのご参加を希望される方は、同封の払込票にて10月11日(水)までにご入金ください。入金確認をもって出席確定とさせていただきます。(会場定員を超える場合、入金日の先着順とさせていただきます。お早目のご入金をお願いいたします。)

また、上記会費とは別に同窓会運営費2口2,000円以上の振込についてもよろしくお願いいたします。

<一宮高校 第34回生(昭和57年3月卒業生)の皆さまへ>

懇親会終了後、34回生の同窓会を開催します。同封のご案内(ピンク色A4用紙)をご参照の上、ぜひご参加ください。

問い合わせ先：幹事学年代表 押谷真弓/副代表 牧謙治/副代表 小出将二
 メールアドレス：ichinomiya034@gmail.com

R5年度 同窓会総会 企画講演

講演の内容

すべてはプロセスである
 ～今、話したいこと、
 挑みたいこと～

講師：篠田道秀氏



「シン・ニホン」第5期公式アンバサダー、NHKディレクター

略歴

- 1982年3月 一宮高校卒業(弓道部途中退部)
- 1985年8月 全日本弓道選手権 個人二位
- 1986年 東大弓術部主将として国公立、七帝、リーグ戦を制覇
- 1988年4月 NHK入局。長野局へ赴任。「ウオッチング」などを制作
- 1993年 放送センターに異動。「ひるどき日本列島」、「くらしのジャーナル」、阪神・淡路大震災などの取材・企画・制作
- 1998年 高知局デスク。「10代の性」、「おーい、ニッポン」等を制作。
- 2004年 国際局で「佐世保女児殺害事件」を取材。「命の教育」実践のため、町田市鶴川で学校ビオトープ活動、「おやじの会」を開始。相模原障害者殺傷事件を取材。重度障害児との交流が始まる。
- 2016年 コロナと共に「リモートかぶとむし活動」を開始。
- 2020年春 東京五輪の検証、明治神宮外苑再開発問題を取材
- 2021年～